

新会長に浅川英則氏が就任 されました。



取材者：大坪 尚喜（高知整形・脳外科病院）

令和4年6月4日（土）に（一社）高知県作業療法士会 第13回総会の役員改選にて、浅川英則氏が新たに会長に就任されました。今回、浅川会長へ取材させていただき、士会活動を始めてからの事業の変化や歴史、作業療法士の役割の変化、これからの士会活動について伺う中で、地域の方や社会への貢献だけでなく、会員の皆様に対する熱い思いもお聞きすることができました。今後、職能団体として何ができるのか、何をしていく必要があるのかなど、これからもより士会が一丸となって、取り組んでいく必要があると感じました。

会員の皆様、是非、記事をご覧ください(^ ^)

Q. 浅川会長が士会活動を始めてから会長就任までの22年間

浅川会長

2000年春に淡路島の病院を退職し、高知に戻ってから士会に声をかけていただき、事業部員として活動を始めました。2008年から事業部長と理事を兼ねる形で役員となり、4期（8年）務めたあと副会長として3期（6年）士会活動に携わってきました。

22年前と比べ、士会を取り巻く環境や役割等、様々なことが変わってきています。22年前の士会の活動は、会員の研鑽、会員同士の交流など、会員向けの活動が中心でした。外部に向けた活動としては一般の方や高校生にまだまだ認知度の低かった作業療法士の仕事を知ってもらうための啓発活動を行っていました。しかし現在は、作業療法士の認知度もかなり上がり、行政や地域の方々からも必要とされる場面が増えるなど、作業療法士が担うべきことも大きく変化しております。私は会長として、より今の時代に合わせた職能団体としての役割を果たせるよう、士会員767名とともに歩んでいくことを目標としています。会長職に就き、今、そのスタート地点に立ったと感じています。

Q. 今後の士会の取り組みについて

浅川会長

会員向けの活動は、引き続き研修会や学会の開催等を行っていきます。外部へ向けた活動は、今まで以上に力を入れて取り組んでいきます。啓発のみでなく、高知県で働く作業療法士として、その特性を活かした地域支援や社会貢献、公益活動等、職能団体として役割を担えるような組織づくりに取り組んでいきます。

そのためには、人材確保と育成が不可欠です。各分野で活躍している会員の方々へ参画していただきながら、次の世代に引き継ぐように、育成に励むことが大切であると考えています。また、参画していただく会員の方が得られる対価も大切だと考えています。今後はそれらについてももしっかり取り組んでいきます。

Q. 今年度について

浅川会長

今年度は役員定数の三分の一にあたる5名が新役員となりました。そのため、この一年は各部局や理事同士の連携に重点を置き、予定している事業を円滑に行えるように取り組んでいきます。また、コロナ禍であまり活動できていなかった一般の方への啓発活動の再開に向けた準備も行っていく予定です。

また、私自身の日常がそうですが、コロナ禍で会員同士のつながりが著しく減ったと感じています。今後もしばらくはオンラインを活用した運営が中心になりますが、やはり人との交流には対面でしか得られないものもあるため、オンラインと対面の両軸で交流ができるように準備を整えていきます。

さらに、福祉用具について作業療法士向けに支援を行う福祉用具相談支援システム、生活行為工夫情報事業の運用に向けて準備も始めていきます。詳細が決まれば会員の皆様へご連絡させていただきます。

会員へメッセージ

一人一人が今できることに励むことは、自身の成長だけでなく、これから作業療法士を目指す若い世代にも作業療法士への信頼や期待として必ず還元されると思っています。そのためにも、会員一人一人の言葉に沿いながら、これから先の時代を見据えた士会運営に努めて参ります。

会員の皆様におかれましては、引き続き士会活動へのご理解、ご協力の程、よろしく願いいたします。